

私たちは一九八六年来、富山県立近代美術館で起こった、大浦信行氏の連作版画『遠近を抱えて』をめぐる、さまざまな動きと展開に、つよい関心をはらいつづけてきました。そしてこの問題にたいする当事者である元館長の適切で主体的な対応を待ちつづけてきました。

私たちは、美術展企画運営にかかわる批評家及び美術館は、社会的行為としての批評的営為を遂行しているという認識に立っております。そして批評はときに誤謬を犯すこともあり得るが、その正誤を歴史的な過程のなかで、つねに問いかえず責任をとまなうものと考えています。

大浦氏の作品にたいする問題は、すでに九年余を経過し、再度のシンポジウム、抗議文送付などが、これに関心をもつ批評家、作家によってなされてきましたが、その後、館側の対応は、きわめて不明瞭なまま今日に及んでおります。私たちはこの事態につよい疑問をもっております。

この問題は、単に大浦氏作品と、富山県立近代美術館といった関係を越えて、その他にも見聞する行政と学芸のあり方、批評的行為者としての美術館の主体性に、つよい影響を与えるものだからです。より大きな視点からみれば、戦時中の批評行為の戦後責任、また今後の行政管理と企画のあり方とその責任、そして美術館を支える作家と観客の権利、表現の自由の問題等かぎりなくひろがる可能性をもっています。そしてこの一連の動きは、前例のない事と言われていますが、今後もこれに類似する問題が曖昧化される契機ともなり得ます。

すみやかに当事者である元館長及び富山県立近代美術館が、いきさつを充分説明し、美術館としての責任と主体性を明確にすることを望みます。

一九九五年九月

美術評論家連盟有志

- | | | | | |
|---------|----------|-------|-------|-------|
| 青木重雄 | 赤根和生 | 秋田由利 | 朝日晃 | 飯沢耕太郎 |
| 石崎浩一郎 | 井関正昭 | 井出洋一郎 | 伊藤誠 | 乾由明 |
| 遠藤光一 | 大塚雄三 | 小倉正史 | 織田達朗 | 尾野正晴 |
| 片岡雅志 | 加藤貞雄 | 金澤毅 | 川口直宜 | 菊地明子 |
| 桐島敬子 | 草薙奈津子 | 桑原住雄 | 神代雄一郎 | 斎藤俊徳 |
| 潮江宏三 | 坂本満 | 篠田達美 | 島敦彦 | 島田康寛 |
| 末永照和 | 菅章 | 菅原猛 | 瀬木慎一 | 高島直之 |
| 高橋正人 | 宝木範義 | 武田厚 | 田中日佐夫 | 谷新 |
| 永井信一 | 中村義一 | 中村敬治 | 林紀一郎 | 中村英樹 |
| 仁科又亮 | 野村太郎 | 長谷川栄 | 平井亮一 | 針生一郎 |
| 日夏露彦 | 日向あきこ | 原田実 | 増田洋一 | 藤井久栄 |
| 藤枝晃雄 | 細野正信 | 村木基 | 本江邦夫 | 三木多聞 |
| 三頭谷鷹史 | 峯村敏明 | 村田慶之輔 | | 山本和弘 |
| ヨシダ・ヨシエ | ワシオ・トシヒコ | | | |